

## JAGD DOGA

ヤクト・ドーガ

「地球寒冷化作戦」を推し進めるネオ・ジオンが開発した、ニュータイプ専用試作MS。

当初はネオ・ジオン総帥シャア・アズナブルの乗機となるはずだったが、ギラ・ドーガをベースに再設計したことからバランスが悪化、さらにシャアの要求する性能も満たせなかった。

そのためシャア専用機として、新たに基本設計から刷新したMSとしてサザビーが登場。完成した2機の試作機はギニュー・ガスとウェス・バラヤ(ウェス・エア)に与えられ、 Rond・ベルとの戦いに投入された。



全高	21.0m
全幅	28.0m
全重	64.6t
装甲材質	ガンダリウム合金
推進力	3,340kW
機体重量	82,000kg
機体全長	20,500mm
武装	ビーム・アサルトライフル(キュネイ機)×1 メガ・カトリングガン(ウェス機)×1 ヒートナイフ付ビーム・サーベル×1 フランネル×6 ミサイル×6 メガ粒子線内蔵ソーラード×1
パイロット	ギニュー・ガス、ウェス・バラヤ

# GUNDAM MS Bible 26

## CONTENTS

## ■戦場レポート

涼宮からの攻撃

01

## ■MS機体解析

機体解説

武装解説

05

10

## ■関連MSラインナップ

ヤクト・ドーガと関連機体

12

## ■MSパイロット

ギニュー・ガスと周辺人物

14

## ■MS戦記

ヤクト・ドーガ 戦闘の記録

16

## ■MS進化論

ヤクト・ドーガ 開発系図

18

## ■メカニック・ジャーナル

シールド

22

MSのカラーリング

28

「シャアの反乱」期の世界

32

## ■ガンブラ ジェネレーション

2種類の同型機の武装と機能を振り返る

34







『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』より

# 欺瞞からの攻撃

## 通用MS ネオ・ジオン

密約を履行しているという体を取るため、ネオ・ジオンは巧みな欺瞞を行った。まず艦隊勢力を二分し、不足分をバターン・ダムで補充。水増しした艦隊をルナツーに送り、いかにも全艦隊が投降したかのように見せかけたのだ。そのうえで連邦軍の隙を突いてミサイル群で攻撃に臨み、さらにMS部隊で残敵を掃討させ、ルナツー制圧を成功させたのだった。



MUSAKA  
ムサカ級艦載用機



AMS-119  
GEARA DOGA  
ギラドーガ



AMS-119  
GEARA DOGA (REZIN USE)  
ギラドーガ(レジン機)



MSN-03  
JAGD DOGA (QUESS USE)  
ヤクト・ドーガ (クェス機)  
MS機群の一艦を担い、ルナツー攻略戦でMS部隊  
ルナツーに赴いたアデナウアー・バラヤ参謀次



U.C.0093、地球連邦政府に宣戦布告を発したネオ・ジオンは小惑星5thルナをチベットに落下させた。

ネオ・ジオンを過小評価する連邦政府はコロニー1基の独立とアクシズの譲渡を引き換えに、武装解除および艦隊戦力の引き渡しという密約を取り付けることに成功した。

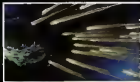
しかし、これが巧妙なフェイクだと気づいたのは地球連邦軍外郭新鋭部隊ロンド・ベルだけだった。

艦隊の引き渡しと見せかけてルナツー宙域に接近したネオ・ジオン艦隊が、突如として発砲。

無防備だったルナツーはたちどころに壊滅し、この地に保管していた核弾頭を強奪されてしまったのである。

## 戦闘宙域

一年戦争以前から地球連邦軍の宇宙における要衝だったルナツーは、戦後も連邦軍が引き続き運用。ただし月の裏側という戦略的にあまり価値のない場所に位置していたことから大規模艦隊は駐留せず、核弾頭の貯蔵庫とそれを管理する部隊が常駐していた。ちなみにルナツーを占領したネオ・ジオン艦隊はその約半分がバルーン・ダミーだったが、その程度の艦隊でも制圧が可能だったのである。



地球連邦軍小惑星基地、ルナツー全貌



MSN-03

JAGD DOGA (GYUNEI USE)

ヤクト・ドーガ (ギュネイ用)

を攻撃した。なかでもクレス艦は、連邦政府代官として  
の要るクラブ艦を襲撃するなど、襲撃を受けた。

VS



RGM-89 JEGAN

ジェガン

ルナツーに到着しているMS艦隊。ルナツーに軍  
運するネオジオン艦隊の襲撃を行い、襲撃しないと  
判明したが、襲撃に被害を受けている。

## 運用MS ロンド・ベル

サラミス改とジェガンで構成された部隊がルナツーに駐  
留。ネオ・ジオンがこの地で施設破壊する際にはクラブ  
艦に襲撃した連邦政府参謀次官が派遣され、迎撃に立  
ち会う手筈だった。しかしネオ・ジオンのだまし討ちに遭  
い、駐留部隊も参謀次官も殲滅と化している。

SALAMIS MOOIFIO

サラミス改参謀連隊



CLOP

クラブ艦参謀連隊

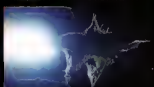
## HISTORY TIMELINE

——戦場の風聞——

### ■アクシズを運る攻防戦

ネオ・ジオン艦隊がルナツーを制圧した頃、  
シャア・アズナブルに率いられたもうひとつの  
艦隊が小惑星基地アクシズを占拠。ルナツー  
から運び込んだ核弾頭ごとアクシズを地球に  
落下させ、地上に「核の冬」をもたらす「地球  
寒冷化作戦」の全貌が明らかとなった。対す  
るロンド・ベルはアクシズ落下阻止に動くが連  
邦軍の了承を得ることができず、ほぼ単独で  
の作戦行動を強いられることになった。

小惑星帯からの移動に用いられた軌道・エンジン  
が再度点火され、アクシズは地球落下軌道に入った。



しかし強化人間(ギユネイ・ガ  
ス)がその能力を駆使して核  
弾頭ミサイルを的確に撃破。  
アクシズ周辺に大小の核爆発  
が発生したが、アクシズ本体  
に撃破は及ばなかった。

対するロンド・ベル艦隊は連  
帯弾頭の直前に核弾頭を落  
下ミサイル群を複数発射。ア  
クシズの軌道変更もしくは特  
殊的破壊を試みている。



# MS 機体解析



MSN-03 JAGD DOGA (GYUNEI USE)

ヤクト・ドーガ (ギュネイ専用機)

## 戦力の不足を補うべく 汎用主力MSを発展させた ネオ・ジオンのNT専用機

シャア・アズナブルが再興したネオ・ジオンは、地球連邦軍との武力衝突を想定して独自の戦力を蓄えた。さらに、戦力を補うためにニュータイプと強化人間をその中核に据え、いくつかのNT（ニュータイプ）専用機の開発を進めた。そのひとつが、MSN-03 ヤクト・ドーガである。

当時のネオ・ジオンはNT専用大型MAのNZ-333 α・アジールに開発力のほとんどを割いていたため、主力量産MS以上の高性能機を開発する余力がなかった。そのため、AMS-119 ギラ・ドーガをベースにNT専用MSの開発が進められた結果、このヤクト・ドーガが完成するに至った。新素材のサイコ・フレームによって優れた機体適応性を発揮した本機だったが、開発当初の目標性能は達成できず、2機が試作されるにとどまっている。



2機が試作されたヤクト・ドーガはネオ・ジオンの重要な戦力として地球連邦化作機に投入され、一戦の戦果を挙げた。



主力量産MSを凌駕するがゆえの限界もあったが、サイコフレームを備えたNT専用機として戦場に耐えうる性能を示した。

### ■機体比較



設計を共用しているため機体形状はギラ・ドーガに似た部分が多く、フォルムもそれに近い。また、機体サイズは当時の標準を大きく超えるものではないが、全機量産は大きく機体MAに分類されるケースもある。



同スケール  
イロ・ノとの対比

MSN-03  
JAGD DOGA  
Front view

# MS 機体解析 機体解説

## ギラ・ドーガをベースとした設計にサイコ・フレームを採り入れたNT専用機

ヤクト・ドーガの設計はギラ・ドーガをベースとしているが、後者は汎用主力MSでサイコミュ・システムの搭載を想定していなかった。そのため、サイコミュ機器を小型化する必要が生じ、その過程で省略された機能を補うべく新素材のサイコ・フレームが導入された。それによってサイコミュの感度が向上し、低レベルのニュータイプ能力でも制御が可能となっていたが、総合的には要求性能を満たせずに終わっている。なお、本機の開発はAE(アナハイム・エレクトロニクス)社のグラナダ工場で行われた。

### ■頭部

ヤクト・ドーガの頭部はベースとなったギラ・ドーガのものとは形状が大きく異なり、前面を覆うカメラ・シールドが外観の特徴となっている。また、腰部部分にはレーザー・センサーを備え、頭頂部に設けられた長近2基のアンテナは通信アンテナとレーダー警戒アンテナの機能を有しているとされる。メイン・カメラにはモノアイが採用されており、センサー有効半径はベース機の16,400mから20,500mに向上していた(同じとする説もある)



左は頭部を正面から見たもの。モノアイ・スリットは顔のように左右に分割されている。



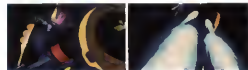
・ギョネイ・ガスの後者はモノアイ・スリットの上に顔をもったマーキングが施されている。



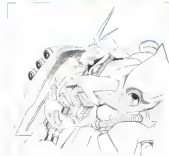
頭頂部のアンテナは長いものが通信用、短いものがレーダー警戒用だったと言われる。

### ■胴体

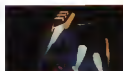
ヤクト・ドーガはギラ・ドーガのムーバブル・フレームを流用しつつ、ジェネレーターをベース機の約16倍の出力を有するものに換装している。また、腰部サイド・アーマーにスラスターを配した構造は、ギラ・ドーガの次に開発されたAMS-120X ギラ・ドーガ(サイコミュ試験タイプ)に共通しており、本機がそれらの設計を参考していたことを物語っている。なお、装甲材質はチタン合金セラミック複合材からガンダリウム合金にアップグレードされた。



胴体の基本的な構造はギラ・ドーガと相似たが、腰部にスラスターが搭載されており、駆動力はベース機の1.5倍以上に達している。



左はコクピット・ハッチの展開構造。胸部装甲と腰部外部ハッチが上下に開く。



バックパックは大容量のプロペラントタンクとスラスターが一体化した構造となっている。

MSN 03  
JAGO DOGA  
IGUYMEI USEI  
Rear view



いままでに数回襲撃に入ろうとするヤクト・ドーガ。ネオ・ジオン超時有用機の高からは外れたとはいえ、肩在動力と火力は当時の主力機の能力を凌駕している。



## ■コクピット

コクピットはギラ・ドーガと同じ胴体中央に位置しているが、各種アビオニクスレイアウトは変更されている。また、コクピットの内部機材にはサイコミュ・システムに対応した新型のリニア・シートが採用されていた。サイコミュ・フレームの採用による機体操作性の向上も本機の特徴のひとつで、サイコミュ兵士の即応性にも役立っている。



リニア・シート前後のメイン・コンソールはパイロットの乗降時に下方に収納される。



パイロットの身体を左右を包み込むようなシートの特徴は、ネオ・ジオン製MSの特徴と言える。

ギラ・ドーガのものに比べてリニア・シートのヘッドレストが大幅に大きくなっている。

## ■胸部

胸部は両側面にショルダー・アーマー（「ショルダー・シールド」「ファンネル・ポート・シールド」とも呼ばれる）を配した構造が特徴で、装甲形状などにもギラ・ドーガとの差異が見られる。ただし、胸部前後に姿勢制御用バーニアを備える設計はベース機と共通しており、それ以外にも機体各部に計17基の姿勢制御用バーニアを配している。



ショルダー・アーマーにはサブ・スラスターが内蔵されており、機体の機動力を向上させている。



マニピュレーターにはギラ・ドーガと異なり、ネオ・ジオン製MS共通ユニットが用いられている。

マニピュレーターは機体の機体部分にはさほどダメージを与えないように設計されている。

## ■脚部

脚部の形状はギラ・ドーガとは大きく異なり、大型化した足部アーマーや内部のスラスターなどが特徴に挙げられる。ただし、ムーバブル・フレームが採用されていることから基本構造にそれほど違いはなかったと見られ、膝の姿勢制御用バーニアの配置も共通している。なお、足部のつま先にはセンサーが配されていたと言われている。



5thルナ降下作戦では、アムロ・レイのRGZ-91 U・ガスィとの空戦で右足関節を損傷し、機体性を損なう結果となった。

右は足関節と足部アーマー内部の足関節、スラスターを装甲で保護する構造に変更されている。



## ■運用例

ヤクト・ドーガは厳密には改造機で、要求性能を部分的に達成していたものの、シェアが求める水準には及ばなかった。それでも、試作された機はネオ・ジオンにとって数少ないNT専用機であり、実戦投入が行われている。右はギュネイ・ガスが搭乗した本機の標準装備状態で、5thルナ降下作戦ヤルナツへの奇襲で中核戦力を担っている。



ルナツへの奇襲に参画した2機のヤクト・ドーガ、NT専用機としての機体を期待された。



ギュネイはルナツへの奇襲において機体の主力MSを次々と撃破する戦果を挙げている。





# MS 機体解析



MSN-03 JAGD DOGA (QUESS USE)

ヤクト・ドーガ (クェス専用機)

MSN-03  
JAGD DOGA  
QUESS USE  
front view

## ニュータイプ少女が 最初の乗機とした 赤いヤクト・ドーガ

2機のヤクト・ドーガは並行して建造が進められ、そのうちの1機はシャアの乗機として赤系の下地処理が施されていたとされる。もう1機 (のちのギニュー機) はそれを修形として製造されたが、ヤクト・ドーガが要求性能を満たせずに試作機の段階で終わると、シャアの搭乗を想定した機体は予備機とされたと言われる。しかし、高いニュータイプの素養を持つクェス・エア (本名クェス・バラヤ) がネオ・ジオンに加わったことで、その機体は彼女の専用機として運用されることとなった。ここで触れるもう1機のヤクト・ドーガは、そうした経緯をたどって実戦投入された同型機である。本機はルナツー奇襲に投入されたが、作戦中の損傷とクェスのq・アジールへの機体転換によって放棄され、のちにネオ・ジオン残党軍「袖付き」によって運用されている。



ギニュー機と同様の性能を有するNT専用MSであり、試作段階で開発は中止されたものの高い戦闘能力を誇った。



クェスのニュータイプ能力のテストにも用いられ、彼女の資質も相まってシャアが破壊する位との性能を誇っている。

### 機体比較



ROM-88  
JEGAN  
19.0m

MSN-03  
JAGD DOGA  
(QUESS USE)  
21.0m

AMS-119  
GEARA DOGA  
20.0m

赤と白を基調としたカラーリングと機体の形状がギニュー機と異なるが、両機間で異なるためそれ以外に違いはない。異機運用においては異なる飛行性能を披露していたが、それもパイロットの好みによるものだったとされる。

### SPEC

全高 21.0m 本体重量 488.0t 全機重量 64.0t

装甲材質 カンザウウム合金

ジェネレーター出力 3,340kW

スラスター推力 82,000kg

武装: Aカ・カトリングガン、ビート・ナイフ付ビーム・サーベル  
×1 フランネル×8、ミサイル×8、Aカ格闘用内蔵シールド×1



シャアを襲ってネオ・ジオンに身を投じたニュータイプの少女クェスが乗機とし、實戦に投入された。

# MS 機体解析 機体解説

## クェス・エアの専用機としての運用を促したネオ・ジオンの戦術構想

ネオ・ジオンはNT専用MSの基本設計を自ら行い、実際の開発と製造をAE(アナハイム・エレクトロニクス)社に委託した。ヤクト・ドーガのクェス機も同じで、前述のギニュー機と同一の設計・開発経緯に基づいている。結果的にシアアの乗機として認められなかった本機だが、主力量産MSを上回る高い戦闘能力を有していたことは確かで、ニュータイプの人によって局地的な勝利を得ようとしたネオ・ジオンの構想には合致していたのである。



ルサカ機が機体から発射するクェス機、クェスというニュータイプが存在することによって開発運用に至った。



機体から発射したヤクト・ドーガは、ギンドールのパーツを運用してクェス機を模倣したものであった。

MSN 03  
JAGD 004  
(QUESS USE)  
Rear view



### ■頭部

頭部はギニュー機と数少ない相違点のひとつで、頭頂部のアンテナが省略されている。その機能の代替がどのようになされていたかは不明だが、性能に大きな違いがあったとする扱いはない。また、後頭部には角の装飾が配され、ギニュー機のようなカメラ・シールドのマーキングは施されていない。



カメラ・シールドはギニュー機と異なり、モノアイ・スリットに縁取りが施されている。



### ■機体

頭部の形状とカラーリングが異なるのみで、クェス機とギニュー機の性能はなかったとされる。最大の特徴とも言えるサイコ・フレームの採用による優れた機体適応性も共通しており、本機のサイコミュ・システムはクェスのニュータイプ能力とも高い親和性を示している。



クェスのニュータイプ能力のテストでは、ニュータイプではなくヘッドセットが用いられた。



コクピット・ハッチの構造もまったく異なり、左の前後部分が上方に開く構造であった。

### ■運用例

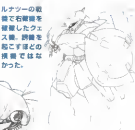
クェス機は地球軍冷作化戦の一環であるルナツー奇襲に参加し、これが「シアアの反乱」における唯一の実戦投入となった。その戦いでクェス機は彼女の実父アデナウアー・パラヤが乗るクラブ級巡洋艦の艦橋を破壊する戦果を挙げたものの、反撃によって右腕部を破壊されている。



クェス機が艦橋に命中したこともあって、大戦を争うには至らなかった。



上は右腕の破壊部位。機体の損傷で上腕部から先とシールドが分離した状態であった。



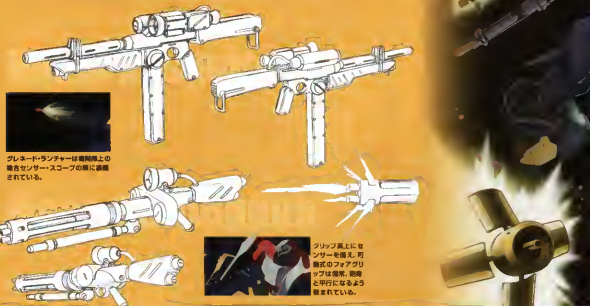
ルナツーの戦いで右腕部を破壊したクェス機。損傷を招くほどの損傷ではなかった。

# MS 機体解析 武装解説

## ネオ・ジオンのNT専用MSに共通する 兵装構成のコンセプトとその戦闘能力

ヤクトドーガの兵装は、汎用MSの標準的な構成にサイコミュ兵器を加えたものとなっている。本機よりもNT専用MSとして完成度の高いMSN-04 サザビーも同様の兵装構成を採用しており、この2機種にはMS本来の汎用性を重視したネオ・ジオンの設計コンセプトが表れていたと言える。なお、前身機にあたるギラドーガ(サ

イコミュ試験タイプ)と比較すると、火力面では劣っていたと言われている。しかし、運動性やサイコ・フレムがもたらすサイコミュの即応性などを考慮すると、総合的な戦闘能力は本機のほうが高かったと評価できる。「シャアの反乱」の実戦における高い戦果は、その性能を証明していたのである。



グレネード・ランチャーは簡易機上の  
簡易センサー・スコープの側に搭載  
されている。



グリップ真上にセ  
ンサーを備え、可  
動式のフォアグ  
リップは通常、戦闘  
と平行するよう  
折まれている。

### ■ビーム・アサルトライフル

本機の専用兵装として開発されたビーム系連射火銃。その名前の通り、突撃銃としての機能を付与したビーム・ライフルで、単発の精密連射率と連射の切り替えが可能となっている。また、銃身上部には理合センサー・スコープ(およびレーザースター)とグレネード・ランチャーを備え、バーチカル式のエネルギーバックアップを採用している。ギョウキ機に装備され、主兵装として運用された。



比較的口径は  
大が、出撃の瞬間  
的なビーム・ライ  
フルと両端の機  
力を有し、メイ  
ンウェポンとし  
て用いられた。

### ■メガ・ガトリングガン

クレス機に装備された大型のビーム系連射火銃で、「ビーム・ガトリングガン」とも呼ばれる。4基の砲身を回転させて交互に射撃することで、メガ粒子の圧縮チャンバーにかかる負荷を分散し、通常の閥式連射機構よりも長く威力の高いビームを連射できる。ただし、エネルギーの消費が激しく、長射程のため取り回しが悪い。その構造から「回転式多砲身ビーム・ガン」と分類される場合もある。



連射性能と機  
動性を兼ね備えた  
機銃兵装で、狭  
い範囲に火力を  
集中して対大  
規模な戦況に  
対応した。

### ■ビーム・サーベル

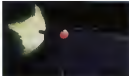
近接戦闘用兵装として1基が装備されたビーム・サーベルは、本機専用として開発されたもので、デバイスの側にある部分にヒートナイフ(「鋭利」とも)を備えている。このヒートナイフは retractable とされ、収納時には刀身がグリップに引き込まれる構造となっている。また、ビーム・サーベルには新機種の開発以外にビーム刀の形成を助けてエネルギー消費を低減するリミッター機能が盛り込まれていたと見られる。



当時の標準的な  
威力を有したビ  
ーム・サーベル  
で、RQM-89  
ジェガン等一  
等でも活躍する  
場面も見られた。



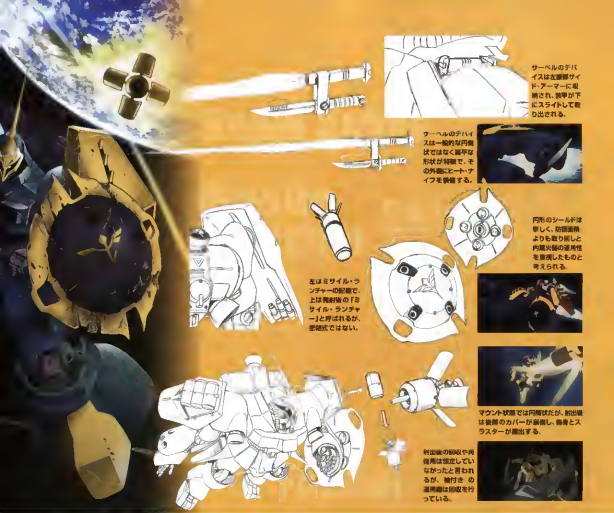
従来のビーム・  
ライフルよりも  
威力で取り回し  
が良く、射撃モ  
ードの選択とい  
った機能にも  
備わっていた。



ルナツーの初期  
型でクラップ機  
の機能を搭載し  
たのは本機に  
よるが、敵機  
による撃墜が  
多い。



RQM-89 リ・カ  
ズィル・ビーム  
・サーベルで切  
りかかるギョウ  
キ機。優れた機  
能も特長の一つ  
となった。



サーベルのデバイスは左腕側サイドアーマーに収納され、装甲が下へスライドして取り出される。

サーベルのデバイスは一般的な円筒状ではなく扁平な形状が特徴で、その外端にヒートアイブを装備する。

円形のシールドは厚く、防弾面だけでなく裏面も防弾火傷の適用性を確保したものと考えられる。

左はミサイル・ランチャーの配置で、上は発射後の「ミサイル・ランチャー」と呼ばれるが、逆転式ではない。

マウント状態では円筒状だが、射出後は銃身のカバーが倒れ、銃身とスラスタが露出する。

射出後の砲口や内筒は固定化していないが、補正されるが、補正の遅延は確認されている。

### ■ミサイル・ランチャー

ショルダーアーマーの前面先端にはミサイル・ランチャーを備える。片側3発の小型ミサイルが露出して配置された構造で、「3連式ミサイル・ランチャー」と呼ぶ場合もある。また、ミサイルの弾体は発射後に閉部が展開して噴射口が露出する構造となっている。胴部とショルダーアーマーの可動によって射界を広く取ることが可能で、威力も高くなったことから近距離の牽制などに用いられた。



ミサイルやグレネードを補助兵器として使用するケースは出典のMSに多く見られ、本編にも採用されている。



ショルダーアーマーはジョイント機構を支点に可動し、ミサイル・ランチャーの水筒砲射でも可能だった。

### ■シールド

シールドは4基のメガ粒子砲を内蔵した複合装備で、通常は左腕側部にマウントされる。メガ粒子砲の出力は1基につき9.3MWで、AMX-103ハンママンマのシールドを原型にコンパクト化されていたという。また、これ以前には3基のインコムを装備したシールドが開発されていたが、サイコミュの開発からファンネルとインコムが同時に使用できないという問題が生じたため、インコムを除いたものが採用されたとも言われる。



シールド表面にメガ粒子砲の砲口を配することで、身体を守りながら射撃が可能である。



メガ粒子砲は接近戦に特化した、収束距離などを活用して敵のビームを弾除することも可能だったとされる。

### ■ファンネル

ファンネルはサイコミュ制御の無線誘導式攻撃端末で、サザビーと同型のものを左右のショルダーアーマーに3基ずつ、計6基を装備している。エネルギーCAPの大容量化でビーム量の威力を実現し（出力は1基につき10.6MW）、運動性や稼働時間はグリンパス戦後期のものに比べて大幅に向上している。また、サイコフレームの採用により応応性や追従性も向上していた。



汎用MSとしての幅広い兵器に追加、サイコミュ兵器であるファンネルを装備し、豊富な射撃能力を発揮した。



ビームの威力向上によってMSに数撃打ちを与えることが可能となり、少ない弾数で敵を倒すことが示された。

# 関連MS ラインナップ



## MSN-03 JAGD DOGA ヤクト・ドーガ

ザクIIの  
設計理念を  
継承した  
主力量産機



指揮官用に  
改修された  
試作型  
高性能機



新生  
ネオ・ジオン  
初となる  
NT専用機



### ■AMS-119 ギラ・ドーガ

シャア・アズナブルを総帥とする新生ネオ・ジオンが所有する主力量産機。ただしベース機は第一次ネオ・ジオン戦争時のアクシズで設計されたもので、耐壊、残機耐力が持ち出した機体に最新鋭パーツを組み込んだとされる。開発に際してはMSの恐竜的進化に対する危惧しが図られ、「人間の機能を拡大した機動歩兵」をコンセプトにしている。そのため汎用性に優れ、バックパックや武装は作戦に応じて換装可能である。

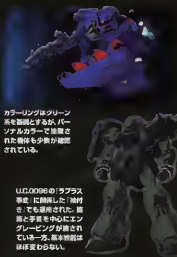
### ■AMS-119S ギラ・ドーガ改

部隊指揮官用にチューンナップされた高性能機で、ギラ・ドーガ(サイコミュ試験型)と同時に開発されたと言われる。機体フレーム自体は原型機と同一だが、装甲素材をガンダリウム合金に一新したことで防弾性能が40%増強。さらに制動用電子機器の大半を新造したことで、機体操作性や探知能力も向上した。しかしα・アジールの開発に生業ラインを優先されたため、最終的に試作機の製造のみにとどまっている。

### ■AMS-120X ギラ・ドーガ

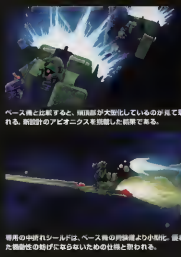
(サイコミュ試験タイプ)

ヤクト・ドーガに先駆けて開発されたニュータイプ専用機。腕部の拡張ビーム部、シールドにグレネードランチャーとビーム・サーベル、専用ビーム・ライフルにもグレネードランチャーを装備するなど、ヤクト・ドーガより汎用性に優れる。反面、運動性に劣り、それが原因で試作レベルにとどまったものと思われる。それでも本機の運用データがヤクト・ドーガの開発に役立てられたのは事実であろう。



カラーリングはグリーン系を基調とするが、パーソナルカラーで塗装された機体も少数が確認されている。

U.C.0096の「ラプラス事変」に開発した「地球」でも使用された。最新鋭のパーツが搭載されている一方、基本機体はほぼ変わらない。



ベース機とは異なり、頭部が大型化しているのが見て取れる。新設計のアビオニクスを搭載した結果である。

専用の中折れシールドは、ベース機の肉付けより小型化。優れた機動性の妨げにならないための仕様とされている。



搭載サイコミュの小型化失敗が運動性低下の原因。そのためα・アクト・ドーガではサイコミュフレームが採用された。

ヤクト・ドーガのファンネルは再チャージできないが、半固定式マウントを採用した本機は可能だったと思われる。

ファンネルを素早く動かすことから、パイロットはニュータイプ能力者もしくは強化人間だと推測されるが、詳細なデータは残っていない。



機内で指揮を執るよりも最前線で行動することを好むシャアが得意。アクシズ落下防止を目的でロンド・ベルと密しい交流を再開した。



設計図面のムロ・レイが原稿。始末を10日も遅らせたが、真意はなかったが、新生ネオ・ジオンのNT専用機に匹敵する力を発揮した。



かつてのNT専用機を改修したワンオフ機



総帥に相応しい能力を得たNT専用機



サイコミュ兵器を初搭載したガンダム



## ■MSN-03 ヤクト・ドーガ (補付き 仕組)

経済状況が良好でない「補付き」は新日MSの改修機を取りをえることで能力を拡張したが、本機もそのひとつ。新生ネオ・ジオンで運用されたヤクト・ドーガのうち、ウェス・エアが担った機体を修復・改修した機体である。直撃した砲撃や一部の武器はゼラ・ドーガのパーツで代用。さらにバックパックもゼラ・ドーガの複製なのだが、こちらは運用性を考慮しての変更である。

## ■MSN-04 サザビー

新生ネオ・ジオン総帥となったシャアの専用機として新開発されたニュータイプ専用機。本来はヤクト・ドーガがシャア専用機になるはずだったが予定された機体性能に達しなかったため、開発計画を断念。新たなサイコミュ装置としてサイコミュ・フレームを導入すると同時に、装甲材質にガンダリウム合金を採用した。これによって飛躍的な性能向上に成功し、大規模でありながら優れた運動性を発揮するようになった。

## ■RX-93 νガンダム

新生ネオ・ジオンに対抗すべく、ロンド・ベルが投入したニュータイプ専用機。信頼性の落ちるスタンダードな基本設計を取り入れる一方、コクピット周辺と関節部分にサイコミュ・フレームを導入。パイロットの意思に機体がダイレクトに反応する機構を実現した。これによって機体適応性が飛躍的に向上したばかりか、ガンダムタイプでは初となるサイコミュ兵器(フィン・ファンネル)の運用が可能となり、サザビーと対峙する機体となった。



旧機ファンネルも3機から2機に減少。材質に言及し「補付き」だけに、旧機なサイコミュ兵器をそろえるのは難しくなったようだ。



兵隊にも十分なものを備えている。なかでも機体武装メガ粒子砲はジェネレーターと直結しており、ビームを蓄積することで複数の砲撃を同時に撃てる。



マシンギンシルエットだが機体各部に28基ものアポジモーターを搭載。駆動は運動性を発揮するほか、量MSとの近接戦闘でも有効な武器となった。



一個したところ、攻撃範囲のように見えるのがサイコミュ兵器のフィン・ファンネル。機体には「コ」の字に射れ機が、機体側のメガ粒子砲として機能する。



バックパックは左右対称型となっており、右側にはビーム・サーベルのフックが、左側には6基のフィン・ファンネルをマウントするようになっている。

# MSパイロット——ギユネイ・ガス——

## ニュータイプへの渴望と野心を胸に秘めて 「シャアの反乱」を戦ったネオ・ジオンの強化人間

ギユネイ・ガスはネオ・ジオンに所属した強化人間のパイロットで、「シャアの反乱」における一連の作戦行動でヤクト・ドーガのパイロットを務めた。それまでの強化人間のように精神的な不安定さは少なく、ネオ・ジオン艦隊旗艦レウレウラ付きのパイロットとして優れた働きを示している。だが、ギユネイは自ら志願してニュータイプ研究所での強化を受けた若者であり、その心の内には強い野心が秘められていた。一年戦争のコロニー潰しで両親

を失った経験から戦争を促す存在に反感を抱いたギユネイは、その暴走を止めるためにニュータイプとしての力を求めたのである。しかし、ウェス・エア（ウェス・バラヤ）という本物のニュータイプと出会ったことで、ギユネイの野心はシャア・アズナブルへの対抗意識へと形を変えていくことになる。そして、ネオ・ジオンが進めた地球寒冷化作戦において、ギユネイはシャアを超えるために力をふるったのだった。



ネオ・ジオンが管理するニュータイプ研究所出身の強化人間として、「シャアの反乱」と呼ばれた戦いに身を投じた。そのなかで能力を発揮して大きな戦果を挙げた。ニュータイプへの望望と強欲がギユネイの戦いを強めていくことになる。



## ギユネイ・ガス Ginyu Guss

### DATA

年齢：不明 所属：ネオ・ジオン 階級：准尉 出身：不明 能力：MS 操縦、強化人間



ロンデニオンでは民間人に変装してホビー・ハイザックを襲撃し、シャアとウェスを回収する戦役に参加した。



アクシズを巡る座席でロン・ベルの機ミサイル攻撃を阻止し、シャアに「あれが強化人間の仕業」と評断された。



ギユネイが管理したネオ・ジオンの戦闘は、強さを誇ったものだった。

### ▶ネオ・ジオンの一翼を担って戦ったギユネイの働き

シャアの宣戦布告に地まったネオ・ジオンの軍事行動において、ギユネイはヤクト・ドーガを駆って戦力の中核を担った。U.C.0093.03.04の5ヵルナ降下作戦ではアムロ・レイのRGZ-91 リ・ガズィを足止めし、5ヵルナの核ノズルを守る働きを見ている。その後、地球連邦政府との極秘交渉に臨んだシャアの副官役としてサイド1・ロンデニオンに赴き、アムロと遭遇したシャアを回収して帰還を果たした。さらに、3月12日に地球寒冷化作戦が最終段階に移ると、ルナツーを奇襲する

艦隊に参加して核兵器の奪取に貢献し、返す刀でアクシズの攻防戦に加わった。その戦いのなか、ケーラ・スゥを人質としてRX-93 ヴガンダムの捕縛を試みるが、アムロの抵抗に遭って失敗することとなる。そして、ロン・ベルの第2次攻撃を阻止すべく、ウェスのNZ-333 α・アジールを捕縛して戦った。だが、アムロのvガンダムの進撃を食い止めることはできず、一瞬の隙を突かれてヤクト・ドーガを撃ち抜かれたギユネイは、機体の爆発に吞み込まれて命を落としたのだった。



アクシズに肉薄したケーラのリ・ガズィを捕らえ、彼女を人質にアムロに降参を迫った。

ウェスとふたりがかりでもアムロに太刀打ちできず、わずかな隙を突かれて果敢ない最期を遂げた。







ギュネイのノーマルスーツは一般パイロット用と同じデザインだった。

## ケースへの恋慕とシャアに対する反発

強化人間でありながらも自身をニュータイプと認識していたギュネイは、天性の能力を示すケースを目の当たりにして考えを改め、己が目指すものを彼女に求めた。同時に、ケースに対して恋慕に近い感情を抱き、彼女が敵対するシャアに対抗意識を燃やしていく。vガンダム機の操縦を試みたのも、シャアがライバル視する敵を自らの力で倒倒させることで彼女とケースを手に入れようとしたためであった。そうした思考とケースを取られるのではないかという疑念は急遽に肥大し、シャアへの反発につながっていく。アクシズの攻勢のなか、ギュネイはケースの恋慕にうと彼女にシャアの側面を吹き込んでいるが、その行動もケースに執着する幼穉さの表れとも言えるだろう。しかし、「トラサをアムロに取られたから、大佐はこの戦争を始めんだぞ」というギュネイの謝罪は、皮肉にもシャアの本質を言い当てていたのである。



恋慕のあまりに抱き合ってしまうケースとギュネイ。彼女こそ、彼のニュータイプとしての力の源を抱くべき存在。

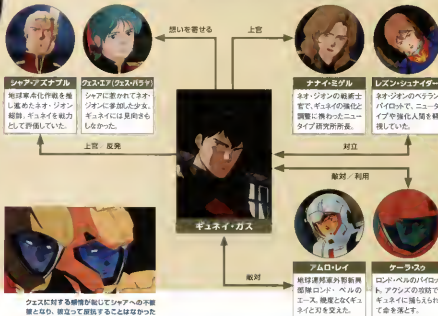


一時は苦悶に陥ることもあったが、正力と向き合おうとしたとき、彼はケースに傾く。



ケースへの執着から、シャアを倒れることで彼女を倒れる道を選ぶ。

## ギュネイ・カスを巡るさまざまな人間関係



## ▶シャアに傾倒したケースの内面

ケースは無意識のうちにシャアの内面に父性を求め、彼に強く依存した。それゆえ、自らに想いを寄せるギュネイを子ども扱いし、激しく拒絶したのだった。



シャアの側面を並べ立てるギュネイを拒くケース。彼の側面はケースを導いた。

ネオ・ジオンの側面に身を投じたケース。戦争の道具としてシャアに利用されることになった。



## ▶MAIN MS

### MSN-03 ヤクト・ドーガ

ネオ・ジオンが開発したNT専用MS。制式採用には至らなかったが、試作機のうち1機がギュネイの専用機として運用された。

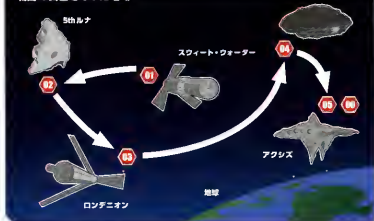
### ホビー・ハイザック

グリップス戦役期の主力MSであるRMS-106 ハイザックを民間に払い下げた機体。ロンデニオンから脱出する際にギュネイが搭乗した。





## 戦場の舞台となった地域



## 5thルナ

地球周回軌道に置かれた小惑星。鉱物資源採掘用に小惑星帯から運搬されたと思われるが詳細は不明。「シャアの反乱」ではネオ・ジオンの攻奪目標とされた。

## ロンゼニオン

地球連邦軍新興外郭部隊ロンド・ベルの拠点が置かれたコロニー。ネオ・ジオンと地球連邦政府の会談が行われた。

## スウィート・ウォーター

密閉型と開放型のコロニーを組み合わせて急造されたコロニー。シャア率いる新生ネオ・ジオンの潜伏場所となった。

## ルナズー

一年戦争以前から地球連邦軍の宇宙基地となつた小惑星。U.C.0093では核弾頭の貯蔵庫として利用された。

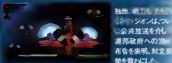
## アクシズ

ジオン公国軍残党の潜伏場所となつた小惑星。第一次ネオ・ジオン戦争後は地球連邦政府の管理下に置かれた。

01

## 宣戦布告と戦力増強

グリアス戦役と第一次ネオ・ジオン戦争という戦乱を立て続けに経験した地球連邦政府だが、度重なる戦乱から何も学んでおらず、戦乱の根本的な要因であるスペース・コロニーの政情は一向に安定せず。連邦政府に対する不満が蓄積。そんな折、グリアス戦役で消息不明となっていたクワトロ・バジニア「シャア・アズナブル」がネオ・ジオン総帥として表舞台に復帰。連邦政府に対する攻撃を加速した。



戦況一変を招いたシャア・アズナブルの復帰。シャアは公衆放送を通じて連邦政府への宣戦布告を発表。対立態勢を露わにした。

02

## 5thルナ、襲撃

U.C.0093.03.03、スウィート・ウォーターを派遣したネオ・ジオン艦隊が連邦政府の管轄下にある小惑星「5thルナ」を襲撃する事件が発生した。しかしネオ・ジオンを過小評価した連邦政府は連邦軍自体を動かさず、ロンド・ベルに制圧を一任したのだった。5thルナ宮城に到着したロンド・ベルは、ネオ・ジオンが小惑星の核バリスターエンジンを再稼働しようとしていることに気付くが、阻止に失敗。軌道を離れた5thルナは地球に落下し、チベットのラサ地区に壊滅的な被害を与えた。



ロンド・ベルと交戦したヤクト・ドーガは、アムロの巧みと攻撃によって損傷を受けている。

03

## シャアの野望として

5thルナの落下を確認したネオ・ジオン艦隊は帰還の途に就いたが、シャアと少数の部隊は帰還と分断され、サイド1のロンゼニオンコロニーに海かかった。5thルナ落下の被害を受けた連邦政府が態度を一変。20以上の被害を回避すべく、シャアとの会談を申し込みに来たのだ。連邦政府高官との会談に応じたシャアはスウィート・ウォーターの自治権と小惑星アクシズの譲渡を条件に、保有戦力の放棄を承認。両者の間で開印文書が交わされ、当面の危機は回避されたように思われた。



シャアを人々に抱いたグレイ・アリスは、クワトロとニュータイプ能力を示す少女に興味をもちようになる。

リ・ガズィ 他

## 戦況の経緯

U.C.0089.01、ハマーン・カーン率いるネオ・ジオンは自派の敗北を遂げ、第一次ネオ・ジオン戦争は終結した。しかしスペース・コロニー間の軋轢は解消されておらず、地球連邦政府への反感が徐々に醸成され、ついに反地球連邦活動という形で噴出した。当初こそコロや小規模な戦線で収まっていたが、U.C.0090年代に入ると反逆活動は激化。地球連邦軍は外郭新興部隊ロンド・ベルを組織して反逆活動の鎮圧にあたったが、U.C.0092.01にシャアが総帥となった新生ネオ・ジオンがL2のコロニー、スウィート・ウォーターを占拠。連邦政府への敵対姿勢を明らかにしたのだった。

## U.C.0088

- ・2月22日 グリアス戦役、終結。
- ・クワトロ(シャア)、行方不明になる。
- ・2月29日 アクシズ、各サイドに制圧部隊を派遣。
- ・8月29日 アクシズ、ダカールを占拠。以後、ネオ・ジオンを標的とする。
- ・12月25日 ネオ・ジオンでグレミーが暴反。

## U.C.0089

- ・1月17日 第1次ネオ・ジオン抗争、終結。
- ・8月25日 連邦軍、スペースノイド害りのコロニーに対する経済制裁を強化。

## U.C.0090

- ・2月 連邦政府、臨時軍事施設としてコロニー「スウィート・ウォーター」を改造。
- ・3月 連邦軍、新興外郭部隊ロンド・ベル隊、設立。

## U.C.0092

- ・8月 連邦軍、本部をチベットのラサに移転。
- ・12月13日 ネオ・ジオン、連邦軍に対して攻撃を示唆。
- ・12月22日 ネオ・ジオン、スウィート・ウォーターを占拠。
- ・12月25日 連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。

## ルナツー強襲

連邦政府との会談を終えたシヤアはスウィート・ウォーターに帰還後、待ちかねたネオ・ジオン兵たちとの前で演説を行い、「地球軍強化作戦」の勸告を届けた。いまだ地上から宇宙を支配する連邦政府を打倒し、全人類を宇宙移民させるとの言葉に、将兵たちの士気は最高潮に達する。そしてついにすべての準備が整い、作戦の第一段階が開始された。横柄は地球連邦軍宇宙基地ルナツーである。会場によれば、この地でネオ・ジオン艦隊の武装解除が行われるはずだったが、約束を反故にしたシヤアは艦隊を2分し、ダミーを寄せた艦隊をルナツーに派遣。油断しきった連邦軍駐留部隊の隙を突いて攻撃を開始し、ルナツーの制圧に成功した。



シェン 他

## アクシズ防衛戦

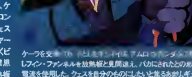
ルナツーで戦艦が発生している頃、アクシズに向かったシヤアとネオ・ジオン艦隊は小惑星を制圧。ルナツーから運び込まれた核弾頭をアクシズに配置するとともに、バルス・エンジンが点火準備に入った。5thルナ以上の質量を有するアクシズを核弾頭ごと地球に落下させ、地上を生命の生存できない環境にすることで人類の宇宙移民化を促進する——それが地球軍強化作戦の全貌だったのだ。一方、ネオ・ジオンの数艦に気付いたロンド・ベルがアランズ宙域に接近。ロンド・ベル艦隊から放たれた大量のミサイルは核弾頭を撃退したミサイルも含まれるがアクシズに接近。しかしギニューの活躍によって大半の核弾頭が撃退されている。



ジェガン 他

## ケラ・スッを人間に

核弾頭を撃退したギニューはロンド・ベルMS隊の捕縛に移った。すると1機だけ突出してアクシズに向かう機体(リ・ガズィ)を発見。死闘からの一撃で動きを止め、鋭く攻撃で半壊状態に追い込んだ。さらに脱出を試みるパイロット(ケラ・スッ)を捕獲に成功したが、そこにアムロレイのvガンダムが接近。一計を案じたギニューは、ケラの身柄と引き換えにvガンダムの放棄を命じた。ロンド・ベルのフラッグ・シップ機を無償で持ち帰れば、ケスも実力を認めざるを得ないだろうと考えたのだ。ワイヤーで機体を拘束されて手出しできないアムロはやむなくビーム・ラフ・ファン・ファンネルを手放し、反故の意思がないことを示した。ところがvガン・ファンネルを放熱機とギニューが動揺したこと、悲劇が生じてしまう。



リ・ガズィ、vガンダム 他

## ニュータイプの実戦投入

ジオン・ズム・ダイクンが提唱したニュータイプとは「宇宙という生活環境に適応し、新たなステージに達した人類」と定義された。宇宙空間を生活の場とする人々が環境に適応した感覚を持つことは必然と考えたのだ。だから戦争という現実もニュータイプとその能力の兵器利用を画策。ハード面では機体や兵器を遠隔操作するサイコミュ(サイコ・コミュニケーション)、ソフト面では人間的なニュータイプ能力者の育成という形で発展した。とくに自然発生的なニュータイプは絶対数が少ないため、地球連邦軍をはじめとする各勢力はニュータイプ研究を専門とする施設(ニュータイプ研究所)を設立。優れた強化人間と専用兵器の開発に血道を上げるようになった。新生ネオ・ジオンもニュータイプ研究所を保有しており、ギニュー・ガスはそこから派遣された強化人間である。恐らくその他にもパイロット候補にいたものと思われるが、実際に参戦したのはギニューただひとりだった。



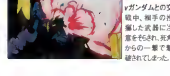
リ・ガズィ、vガンダム 他

## U.C.0093

- ・2月27日 シヤア、インタビュー番組で連邦政府に対する事実上の宣戦布告を行う。
- ・3月3日 ネオ・ジオン艦隊、スウィート・ウォーターを降参。
- ・3月4日 5thルナ、ラサに落下。
- ・3月6日 ネオ・ジオンと連邦政府、サイド1のコロニー「ロンドン」で秘密裏に和平交渉を実施。
- ・3月12日 ネオ・ジオン艦隊、投降を装ってアクシズを奪回。ルナツーから回収した核弾頭を奪取、地球落下コースに乗せる。
- ・アクシズ、地球落下コースから外れる。
- ・「シヤアの反乱」終結。シヤアとムロ、行方不明。

## シヤアとケスの間で……

ケスに深い恨みを抱くギニューだが、今のケスはシヤアに夢中で、彼を一人だにしない。そのためギニューはシヤアへの嫉妬心を高め、シヤアはケスの能力を利用しているだけだと反目するまでになる。アムロを倒すことにこだわったのも、シヤアを超える男になり、ケスの心をも自分のものにしたいとの欲望の現われだった。とほへ反故でその私欲は顔につながら、その隙を突かれてギニューは命を落とす。ケスは彼の死を感じ取ったようだが、その想いには気づかなかった。



vガンダムとの交戦中、相手の設置した武器に注意をそらされ、死闘から一撃で撃退されてしまった。

シャアの要求こそ満たせなかったが、サイコ・フレーム搭載のニュータイプ専用MSとして完成したヤクト・ドーガは高度な戦闘能力を有し、画期的新型機への橋渡しとなった。

### KEYWORD

#### ■ シャア・アズナブル

ネオ・ジオン総帥。終生のライバルとなったアムロ・レイと決着をつける意図もあって、サイコ・フレーム搭載の高性能機を欲していた。

#### ■ サイコ・フレーム

金属粒子レベルでコンピューター・チップ（サイコミュ素子）を詰め込んだサイコ・マテリアル。その共振現象は超常的事象を引き起こした。

#### ■ AE(アナハイム・エレクトロニクス)社

地球圏最大の巨大総合企業。地球連邦軍のMS開発・製造を受注しつつ、ヤクト・ドーガを契機にネオ・ジオンの兵器開発も迫るようになった。

### MSN-03

#### ヤクト・ドーガ

ギラ・ドーガ（サイコミュ試験タイプ）の失敗を受けて開発された、ネオ・ジオンのニュータイプ専用MS。自身専用の高性能機を欲したシャア自らが搭乘し、テストを実施したといわれている。この機体は手直しのため、最終的に別のパイロットに与えられた。

パーソナル  
カスタマイズ

### AMS-119 ギラ・ドーガ

シャア指揮下のネオ・ジオンで採用された主力量産MS。構造的にはシンプルで第二世代MSだが、汎用性、機体バランス、コストパフォーマンスなどに優れるうえ、兵装やオプション類も充実している。開発はネオ・ジオンで、製造はAE社のグラナダ工場で行われた。

ニュータイプ  
対応

### AMS-120X ギラ・ドーガ(サイコミュ試験タイプ)

ギラ・ドーガを基に開発されたニュータイプ専用試作MS。火力の面では後発のヤクト・ドーガに勝るとされるがサイコミュ・フレーム開発以前の機体であり、サイコミュの小型化に苦労した。本機の失敗を受けたネオ・ジオンは以後、AE社にMS開発を委託することとなった。

### RMS-108 マラサイ

AE社製の第二世代MS。グリス戦役期、エウロプ州に開発されたが、政治的判断でディターンズに提供された。ザクIIを第二世代MSの技術で再設計した機体といえるもので、操縦性や運動性を中心に優れた性能を有する。ギラ・ドーガの開発に影響を与えたという。

### AMX-004 キュベレイ

アクシズのニュータイプ専用試作MS。MAエルメスのMS化を目指し、全高18m版ながらサイコミュとファンネルの搭載に成功した。ただし操縦には高度なニュータイプ能力が必要であり、のちのシャア時代にはサイコミュの小型化と使用制御の緩和の両立が模索された。

## MSN-03 ヤクトドーガ

サイコ・フレーム搭載のニュータイプ専用試作MS。ギラドーガのムーバブル・フレームを活用しつつ、高出力ジェネレーターやガンダリウム合金製装甲などを導入している。原型機で想定されなかったサイコミュの搭載に際して、関連機材を小型化したものの機能が不十分だったため、サイコ・フレームが採用されるに至った。結果、部分的には要求以上の性能を示したが、シャアは満足しなかったという。なお、赤い塗装の機体はシャアの専用機となり、これを雛形とする別機がギニュー・ガス機とされた。



ワズ専用機

## MSN-04 サザビー

サイコ・フレームの搭載を前段に開発されたニュータイプ専用試作MSで、シャア最後の乗機。第四世代MSに分類される高出力機で、火力に秀でる。高出力推進器による機動性、サイコ・フレームがもたらす追従性も突出しており、当時最強のMSのひとつとなった。



発展

原型機ギラドーガの限界もあって、シャアの求める機体とはなかったヤクトドーガだが、サイコミュの小型化と使用制限の緩和を可能とするサイコ・フレームの有用性を証明した。その後、サイコ・フレームの搭載を前段に開発されたサザビーが完成したことで、MS開発史上における「ヤクトドーガの役割は終わった。それでも「シャアの叛乱」と「ラプラス事変」に投入され、結果を残したのだった。

発展

発展



## NZ-222 サイコドーガ

ギラドーガ（サイコミュ試験タイプ）の失墜後、サザビーと同時期に開発されたニュータイプ専用試作MA。機体の小型化を断念し、大型MAとして開発が進んだ。その後、サザビーの完成を受けて設計が変更され、より大型のα・アジールが誕生することになった。



## NZ-333 α・アジール

100m以上の全長を誇る、強襲突撃用のニュータイプ専用試作MA。高出力のメカ粒子砲に加えて、2種のサイコミュ攻撃弾を備える。当時の機動兵器としては最大級の火力を有した。戦域への高速移動には、切り離し式のシブブルム・ブスターを用いる。



MSN-03  
ヤクトドーガ  
(機付き)







# シールド

主に胸部に外装されるMS用追加装甲「シールド」は、装着するだけで耐弾性を向上させる「防御」において投棄可能というメリットがあり、MSの堅牢期に頻りに用いられ続けた。兵装内蔵型、変形用サブユニットといったMS用ならくは派生型も開発されている。





## 宇宙世紀に復活した 巨大な「盾」

腕部外装式のMS用増加装甲が、いわゆる「シールド」である。形状や基本機能は人間用の盾に似ているが、その耐弾性は桁違いであり、戦車砲程度なら問題なく防ぐことができる。必要に応じて装備・未装備を選択可能なおえ、不要になった際は放棄が容易な点も大きなメリットといえよう。

一年戦争時、既にMS用の防衛装備として普及し、その後も広く採用されたシールドだが、人間用のそれは暴徒鎮圧用などに使用されているに過ぎず、正規戦ではほぼ姿を消した。小銃弾や機関銃弾に対する防御力とサイズを両立した場合、人間用シールドは重量過多になってしまったためである。

これに対してMSは数十tクラスの重量物を豪々と持ち上げるパワーを有し、「装甲の域」とすら呼べるMS用シールドを数多く扱える。ここにMSと現実的な耐弾性を有するシールドが共存する余地が生まれた。鉄腕の発達で、戦場から消えたシールドが、巨大化して復活したのである。MSの発展にともないシールドの進化も進み、外装式装甲の域を越えたモデルも登場していった。



## 対MS戦を想定した MS用シールドの誕生

一年戦争以前に威力化されたMS-06F ザクⅡF型が既に装備していたことから理解できるように、シールドはMSの黎明期から存在した。史上初めてシールドを搭載した実戦用MSは、ザクⅡF型の前身機にあたるMS-06C ザクⅡC型とされる(それ以前、MS-05 ザクIと整合したEMS-04 ヴダもシールドを装備したが、機体そのものが不採用に終わった)。

これは地球連邦軍のMS投入を見越したキシリア・ザビの指示によるもので、ザクⅡの右肩にシールドが固定装備された。同時に左肩部のスライダーマーも導入されており、一連の改修が対MS近接格闘戦を意識したものだったことが理解できる。

対する連邦軍でも、自兵戦用の試作MS・RX-78 ガンダムの時点でシールドを採用している。これはMS本体の機動・運動性を維持しつつ、総合的な防衛力を向上させるための処置だった。ガンダム用が定期的だったのは、全長10m級の大型モデルを外装オプション化したことで、以後のMS用シールドの方向性に大きな影響を与えた。

## MS用シールドの基本的特徴

MS用のシールドは、耐弾性向上を主目的とする増加装甲の一種である。複合増加装甲システム「フルアーマーオペレーション」が「甲冑」だとすれば、シールドは文字通りの「盾」であり、胸部(特に左胸)への外装が基本的な搭載スタイルとなる。MSの全身を覆うほどの面積

### ■外装式の増加装甲

MS用シールドは、人間用と同じく胸部に外装する増加装甲である。MSIに変更を加えることなく、搭載するだけで耐弾性(防衛力)を向上させられる。オプションであるため必要に応じて投棄も可能だ。



装備するだけでMSの防衛力は格段に向上する。片腕が折れること以外、大きなデメリットもない。

はなため、使用時は装備した胸部ごと任意の方向にシールドを向ける。防衛以外の用途としては、鋭利な先端部や大質量を利用した近接格闘攻撃、投擲による攻撃、兵装を含むMS全体の機体バランスをとるためのウインターウェイト(錘)などがある。

### ■防衛方向の自由度

MS本体に干渉しない限り、胸部の可動範囲内において防衛方向を自由に変更可能である。この自由度が、通常の装甲やフルアーマーオペレーションとの決定的な違いのひとつとなっている。



正面から襲撃側の側面に展開するの一般的なシールドを構えつつ、逆襲の兵装で攻撃することも可能。

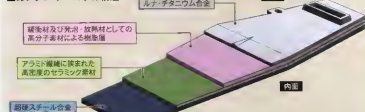
## シールドの装甲

シールドを構成する装甲は単なる「鉄板」ではなく、大半がMS本体の装甲を簡略化した複合装甲である。MS用装甲と同じレシピとすれば、より高度な耐弾性を得られるが、使い捨てにされることが多いこと、被弾時の破壊によってダメージを分散させる設計思想などから、費用対効果重視した設計となっている。



左はザクバスターの直撃を受けたガンダムシールドの断面。ザクⅡFのシールドは30cm強の装甲厚を誇ったようだ。

### ■ガンダム・シールドの構造



## MSとシールドの接続方式

一般にシールドはMSの胸部に搭載されるが、その接続方式はひとつではない。最初期に確立されたのが肩に固定装備する方式で、その後、ハンドルを手部で握るタイプ、ハンドルと前腕部マウントラッチの併用型、マウントラッチ単独での接続方式などが実用化されていた。

ムーバブル・フレームが開発されると、それに伴う固定方式も登場している。最終的に普及したのがマウントラッチ単独での接続方式で、被弾時に過度な負担がかかった際、ラッチからシールドを切り離すことで、胸部への波及被害を防ぐようである。

### ■ハンドル式

シールドの裏面に配置されたハンドルを、五本指マニピュレーターで握る仕様。グフ用が最初期のモデルである。短期間で前腕部マウントラッチとの併用型に移行し、U.C.0080年代前期まで多用された。



### ■肩部固定式

肩部に固定装備する方式。ザクⅡC型で確立され、以後、ハイザック、ギラド・ガンなどに継承された。肩とシールドは回転軸で接続されており、胸部とは別に稼働可能なタイプも存在している。



### ■マウントラッチ式

U.C.0080年代中期から普及した接続方式。前腕部のマウントラッチのみで接続するため、装備時の手部の自由度が高い。シールド側の基部はターレット式であり、自由に回転させることができる。



### ■ムーバブル・フレーム式

ムーバブル・フレームとの一体化により、胸部とは別に駆動するタイプ。ムーバブル・シールドとも呼ばれる。火器、兵装、プラトネーム、推進器などが一体化される。キャパラン用が代表的である。



## TECHNOLOGY INFO

### シールド未装備のMS

MS用の外装式防衛装備として広く普及したシールドだが、搭載しない機体も存在する。MS本体に重装甲を施した重MS、水中での低抵抗増大を稼ぐ水陸両用MS、回避能力を重視した高機動・高運動性のMSなどが大半を占めている。これはコンセプトの問題で、MSN-04 サザビーのように重MSでありながらシールドを装備する例も散見される。



MS-18E テンペスタ  
やAGX-04 ガベラテラなどの重武装MSも、シールドの装備例が少ない。MSカテゴリーである。

### MS-09 ドム

陸戦用の重MS。重装甲であり、シールドを装備しない。ホバー走行中の空気抵抗を軽減するための措置でもあった。



### MSN-00100 百式

エコーの攻撃型MS。機動性と運動性に優れており、防衛面は回避と前ビームコーティングによる部分が大い。



## シールドの拡張機能

MS用シールドが単純な外装式装甲だった時期は短く、MSの進化に合わせて様々な機能が追加されていた。シールド特有の大きな表面積も拡張性を担保しており、多種多様なシールドが生まれる要因となった。



一年戦争時には「置き忘れ」のモビルが多かったが、カメラステムとコックピット内モニターの発展により減少した。



ユニコンガンタムのシールドはサイコムによる遠隔操作が可能だがこれは想定外に発見し機能であった。

## ■固定兵装一体型(格闘)

格闘兵装と一体化、または格闘兵装としての機能を有するシールド。ザクⅢ用シールドにスパイクを取り付けたものが最初期のもので、連邦系でもジム・コマンド用などが鋭利な先端を備えていた。



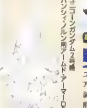
ザクⅢ用シールド



グリプス戦役時には格闘兵装のビームサーベルからビーム刃を展開可能なモデル、シザーズ搭載モデルなどが登場。

## ■推進器搭載型

推進器機能を持つシールドで、U.C 0080年代からハイエンド機を中心に採用。シュトルム・ブースターの再利用を目指したTRシリーズ用シールド・ブースター、ガンダム Mk-V 用などが知られる。



ユニコンガンタム用シールド



ユニコンガンダムシリーズ用のアームド・アーマー・DEは、背部に設置することで推進器としても機能した。

## ■対ビーム防御機能

耐ビーム・コーティングやフィールド・ジェネレーターの搭載により、ビーム兵器に対する防御力を付与したものの、耐ビーム・コーティングはメカ粒子線だけでなくビーム・サーベルにも耐性がある。



フィールド・ジェネレーター用シールド



耐ビーム・コーティングはビームを受けると発熱してメカが比較的安定であり、一年戦争末期から普及していった。

## ■固定兵装一体型(射撃)

ビーム砲やミサイルランチャーといった火器を搭載するシールド。コードミサイルとハイドロボムを備えるガンダムが最初期のもので、U.C 0080年代後期にはビーム砲搭載型も登場している。



ザクⅢ用シールド (A連隊メカ粒子線砲内蔵)



U.C 0090年代には、高機動やハイロウにからかわず採用された。敵弾が防壁を突きかきない間隙も抱えていた。

## ■変形用サブユニット型

可変MSにおいて変形システムの一部をなすサブユニット型。ウェイブライダー(WR)形態で機首や下面フェアリングをなすデルタ・スカンダム系用、コアトープの主要となるZZガンダム用などが該当する。



ZZガンダム用シールド (WR形態)



ZZガンダム用シールド (WR形態)

## ■兵装用マウントラッチ搭載型

手持ち兵装や予備弾倉などに形態可能なマウントラッチ。直接性弾に近い裏面に搭載するのが一般的。後述の固定兵装一体型と異なり、あくまで予備兵装をマウントしておける機能である。



予備弾倉やエネルギーバグ以外では、ビームサーベルやビーム・サーベルといった格闘兵装の搭載例が目立つ。

## ■伸縮・折り畳み機構搭載型

伸縮機構や折り畳み機構を備えることで、コンパクト化を可能としたシールド。伸縮式は、慣性モーメントを小さくできる点などが利点。ガンダム試作1号機用以後、U.C 0090年代まで普及された。



伸縮式はガンダム試作2号機やガンダム Mk-Ⅲ 用、折り畳み式はマラサイ用やゼラウ(ガブリエル)用などが該当する。

## ■兵装・運用システム型

変形用サブユニット型とは別の側面、MSの兵器・運用システムと密接に関連したシールド。アミンクバズーカ使用時、放射線や熱線などから機体を防衛し冷却するガンダム試作2号機用が代表例。



ガンダム試作2号機 専用シールド



機体型ガンダムのシールドを地面に突き立て、長大かつ大反動の180ミリタンの砲撃として使用することもあった。

## MORE INFO

### シールドの転用

優れた耐弾性と大面積を誇るMS用シールドは、本来の用途以外にも使用された。そのひとつが前線改修機RX-79[G]Ez-8ガンダムEz8の胸部装甲への転用で、175mm砲の直撃にすら耐えた。異機種のシールドの転用も転用のひとつである。



アジア地区に逃げ込んだジオン公軍トップ小隊のザクは、ジム用シールドを装備した。



非使用時のシールドを背負ったガンダムやゲルググは、結果的に背面の制弾性を高めた。



ガンダムEz8の胸部装甲は、直撃したザクIIの胸部シールドを加工したものであった。

## MORE INFO

### MS以外のシールド装備

シールドがMS(変形・分離合体形態含む)の専用装備である時代は長く続き、例外はMSに極めて近い可変MAのみとていつい状態だった。劇的な変化をもたらしたのがビーム・シールドで、艦艇にも装備されていた。



モビルタンクのモビルドは、モビル形態時の新装甲が防弾板として機能したことも。



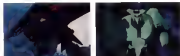
MAビグランは、駆動アーム搭載の新型巨大装甲板を装備するはずだったが未搭載に終わった。

## 地球連邦軍系本流のMS用シールドの推移

下の表は、一年戦争から第一次ネオ・ジオン戦争までの間にロールアウト、または戦力化された地球連邦軍系MSのシールドの一部である。これを見てわかるのは、MS用シールドの王道たる「胴部外装式の増加装甲」から外れたモデルが少ないことだ。

そもそも連邦軍は、ガンダム・シールドの時点でMS用

シールドに必要な要素を完全に満たしていた。両に固定装備したザクII周と異なり、オプション化することで装備・未装備を選択可能なうえ、戦闘行動中でも容易に投棄できる点が決定的に優れていたのである。U.C.0090年代には固定兵装を持つモデルが主流となるが、極端な高コスト化は避けていた。



ニュータイプ研究所やバブラスシロノコ設計の機体では高機能的なシールドの採用例もあるが、主眼にはならなかった。

## ■ガンダム ジムタイプMS用シールド（一年戦争～第一次ネオ・ジオン戦争の一部）

代表的な形態MS	型式番号	備記
RX-78-2 ガンダム	RX-M-Sh-008/S-01025	いわゆるガンダムシールド。ザクIIバズーカの直撃からでもMSを守る
RGM-79 ジム	FADEGEL RGM-M-Sh-003 (RX-M-Sh-VT/S-008)	RXシリーズ用と設計を同じくする量産MS用
RGM-79C ジム改	FADEGEL RGM-M-Sh-007	上記のジム用の改良モデル。装甲材質の変更、スライドハンドルユニットの採用などが特徴
RGM-79G ジム・コマンド	NFHI RGM-M-Sh-AGD	装甲を曲面形状とした大型モデル。裏面には予備マガジンを2個搭載可能
RGM-79N ジムカスタム	RGM-Sh-ABT/S-00057	ジム・コマンド用のマイナーアップデザート型
RGM-79Q ジムクワール	RGM-M-Sh-ABT/S-00195	改修を重ねられたジム・コマンド用の改修モデルのひとつ
RX-79(G) 陸戦型ガンダム	YHI RGM-S-Sh-WF (RGM-S-Sh-WF/S-00109)	陸軍主導で開発された小型軽量モデル。近接攻撃や遊撃としても使用できた
RX-79(G)Ez8 ガンダムEz8	YHI RGM-S-Sh-WF (RGM-S-Sh-WF/S-00116-Ap-A)	陸戦型ガンダム用の表部に装甲を追加したモデル。前線で改修が加えられた
RGM-79FP ジム・ストライカー	YHI RGM-S-Sh-SP	陸戦型ガンダム用を近接戦闘用に改修したモデル。先端に2本のバイルドライバーを有する
RGM-79FP ジム・ストライカー	YHI RGM-S-Sh-BC	陸戦型ガンダム用の改修モデルのひとつで、先端に3本の可動式フローを備える
RX-78NT-1 アレックス	RX-C-Sh-05 UBC/S-0003	デュラム・アーマーの構造を流用し、独自組成の樹脂・ビーム・コーティングを施したモデル
RX-78GP01 ガンダム試作1号機	RX-V-sh-023F/S-04712 (Fb型用は末尾が04718とも)	初期の伸縮機構搭載モデル。リチウム合金製で、樹脂・ビーム・コーティングも施された
RX-78GP02A ガンダム試作2号機	NR-Sh-02 RX/S-00013	核爆発から機体を守る「ラジエーター・シールド」・アトミックバズーカのバレルを搭載可能
RX-178 ガンダムA Mk-II	RX-M-Sh-VT/S-00018 (末尾のナンバーは運用組織待機で変動)	伸縮機構搭載モデル。裏面にビーム・グライヴ用Eバックを2個、搭載可能
RGM-86R ヌーベルジェムⅡ	AE-BR RGM-M-Sh-VT	ガンダムA Mk-II用を基に、AE(アナハイム・エレクトロニクス)社の傘下企業であるAEブラッシュ社が生産したモデルだという
NFZ-006 Zガンダム	FF-XV-Sh-609Z	伸縮式のシールド。WR形態では機首を含むフェアリングを構成する

## ビーム・シールドの登場と実体式シールドの衰退

グリアス戦役期から顕著化したMS用シールドの多機能化。特に固定兵装の搭載は、MSの原点回帰と呼ばれた第一次ネオ・ジオン戦争後にも継承された。ビーム砲内蔵モデルこそハイエンドMS用が大半を占めたが、ミサイル類を搭載したタイプはRGM-89 ジェガンやAMS-119 キングドローなどの主力量産MSで広範に採用されたのだ。

この傾向に変化が訪れたのが全高15m級の小型MS、つまり第二期MSの開発である。最初期の第二期MSであるRGM-109 ジェガンやF90 ガンダムF90のシールドは、腕部外装式増設装甲の機能にほぼ限定されており、多機能化を明確に避けていた。

さらなる変化が訪れたのが、UC0120前後から始まったビーム・シールドの普及であった。必要に応じてビームの障壁を展開するビーム・シールドは、それまでの実体式シールドを凌駕する防御力を持つうえ、発生装置が極めてコンパクトという利点があった。これにより実体式シールドは、普遍的装備ではなくなっていったのである。

## 特殊なシールド

前項で解説したように、MS用シールドはいくつかのカテゴリに分類できるが、複数のカテゴリにまたがれるモデルや、類例が見られないモデルも存在する。下記はその一部だが、これ以外にも味方機のパワーを目的

### ■ガトリング・シールド

グフカスタムやグフフライトタイプが搭載するモデルで、ヒート・サーベルのホルダーを有するグフ用シールドに、75mmガトリング砲を外装している。



ガトリング砲は砲撃こそバリエーション可能である。

### ■コンボジット・シールド・ブースター

ガンダムTR-6用の多目的装備。メガ粒子砲、近接格闘兵器、有線誘導兵器、装甲とフィールド発生装置を併用した防御装備。偏向推進器として機能する。

ヒートレイド付の砲撃は取り外し可能。

### ■デルタプラス用

Zプラス用と同じく、複合型変形用サブユニットとしての性格が強いが、ビーム・キャノン、グレネードランチャー、ビーム・サーベルも搭載している。



ビームサーベルは内蔵したままでも展開可能。

### ■シルヴァ・バレット用

ジェガン用シールドとドール・ペン・ウルフ用ビーム・ライフル（ビーム・ランチャー）を接続したモデル。ビーム・ランチャー使用時はバレルを展開する。



収納時

とするジム・ガートカスタムのカーティアンシールド、最小級のガンダムF90ホバータイプ・オプション用、メガ粒子砲とビーム・ジェネレーターを併装したローゼンズール用などがある。

### ■Zプラス用

大気圏内用のZプラス（A1型）が装備するモデル。WR形態に航空機としての機能性を求めた結果、Zガンダム用以上にサブユニットの性格が強くなっている。



センサー類の充実、空力的な配慮などが特徴。

### ■パウ用

当初は5連装メガ粒子砲内蔵のシールドとして開発されたが、「袖付き」時代にはメガ粒子砲を封鎖したシールドモデルに改造。リパウ用も同仕様である。



両腕に固定されたメガ粒子砲

### ■シナンジュ用

シナンジュ・スタイン強襲機「袖付き」が用意したシールド。裏面中央にはグレネードランチャーや展開前のバズーカを発射可能な状態が保持できる。



ビーム・アノスは装着状態で展開できる。

### ■フライト・シールド

大気圏内外両用サブフライト・システムとして使用可能で、大気圏再突入能力も持つという。F90用の（インターセフトタイプ）オプションに付属している。

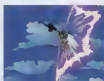


展開時

## TECHNOLOGY INFO

### ビーム・シールド時代の実体式シールド

完璧に思えるビーム・シールドだが、展開中のビーム砲がセンサーを阻害するうえ、兵器兵装特有の発光が露見性を低下させるという問題がある。こうした欠点を嫌って、偵察用MSや超戦艦機では実体式シールドを採用することがあった。ビーム・シールドに駆逐された実体式シールドだったが、特殊装備として生き残ったのである。



### XM-06 ダゲール

偵察用の指揮官機に位置付けられる第二期MS。協同運用される偵察用MSエビルS4同様、シールドは実体式を搭載する。



ビームサーベルと同じ原理のビーム・シールドには、電波障害や発光といった目撃困難な問題が付きまとう。



### ZM-S22SC リグ・シャッコー（近衛師団用）

要人警護の際、位置が露見しないよう実体式のシールドユニットを使い、必要に応じてビーム・シールドを展開する。

## MS用シールドの歴史

ジオン公国軍のザクII C型に始まったMS用シールドは、連邦軍のガンダムシールドを経て一旦の完成を見たという。UC0080年代前期・中期には、伸縮機能の追加、マウントラッチ単独の接続方式の導入といった改良が進展。直後、グリアス戦役を契機に固定兵装一

体型や推進器搭載型などの多機能化が加速度的に進んだ。こうした実体式シールドは単なる増加装甲の枠組みを飛び出していって、ビーム・シールドの登場により歴史的役割を終えたのだ。なお、ビーム・シールドについては別号で解説する予定である。

### 1 MS用シールド誕生

UC0077.09に先行量産が始まったザクII C型で、シールドの搭載が実現。対MS戦を見越した処置だった。



### 2 一年戦争後の改良

UC0080年代中期にかけて、伸縮機構やマウントラッチ接続などを導入した改良や新開発が進展した。



### 2 一年戦争での発展

一年戦争勃発後、腕部外装オプションのシールドが誕生。以後のMS用シールドの基本形となっていた。



### 4 可変MS用の誕生

クワース被控に入ると可変MS用が登場。各可変MSと同時に開発され、変形機構の一部を構成する例が多い。



### 5 固定兵装一体型の普及

火器や格闘兵装の機能を持つシールドの開発が加速。可変MSの開発やMSの重装化のなかで進んでいった。



### 6 ビーム・シールドの出現

UC0120前後から防御力や機動性に劣るビーム・シールドが普及し始めた。実体式は衰退していった。





## MSのカラーリング

有視界戦闘を強いられるミノフスキー粒子散布環境下での敵味方識別の必要性もあり、MSのカラーリングは必ずしも迷彩効果を重視していない。パイロットの自己主張や組織の象徴といった理由でも派手な塗装が採用された。

## 近代的「迷彩」と MS時代の「逆迷彩」

A.D1900年代中期から、軍用機や装甲戦闘車輻といった兵器の塗装には迷彩が多用されるようになった。迷彩塗装による視認性の低下が隠密性の向上に直結し、戦術や偵察などで有利に働くためである。U.C.0079勃発の一年戦争で本格的に実戦投入されたMSも、運用地形に合わせた迷彩塗装を採用した例が散見されている。アフリカ戦線に投入された、サンドイエローのMS-09F TROPドムトローペンは端的な例で、RX-79[G]陸戦型ガンダムが使用したカモフラージュネオと類似の事例と見えていいだろう。

一方で、意図的に目立つカラーリングを施したMSも散見される。これは試作MSや作業用MSといった「見える」ことが重要な機体だけでなく、実戦用のMSでも広く採用された。後者の場合、有視界戦闘を要されるミノフスキー粒子環境を想定したもので、目視による敵味方識別を目的とする場合が多い。11世紀のインペイジョンスライヴに似た性格のもので、黒から赤に塗装パターンが変更されたRMS-099 リック・ディアスが代表的だ。

## 迷彩と逆迷彩の併存

意外なことだが、一般的な(宇宙用の)MSは迷彩をあまり意識していない。宇宙を主な運用エリアとしながら、緑で塗装されたMS-06F サクII F型が顕著な例である。しかし地球上で局地戦用MSの運用が始まると、運用地域に合わせた迷彩塗装を施した機体が増加。その後も迷彩と敵味方識別を中心とした逆迷彩は併用された。

### ■MSの迷彩塗装

MSにおける迷彩塗装は、局地戦用MSを中心に広く採用されたほか、特定地域で運用される汎用MSでも取り入れられた。地球上での多彩な環境に対応するため、迷彩の種類も多い。



U.C.0096頃の地球防衛隊配備の汎用MS群は迷彩塗装を採用していた。

### 砂漠・熱帯

砂漠や熱帯といった乾燥地での視認性を低下させるべく、サンドイエロー、サンドブラウンなどで塗装。サウザータイプが最初期の事例にあたる。



MS-09F TROP ドムトローペン RGM-86R ジムII (デザートカラー)

### 寒冷地

極寒地や高山地帯などでは、雪中で低視認性を示す白や薄いブルーによる迷彩が使用された。北嶺山岳地帯のザクタンク(ワイルドボア)などが知られる。



RGM-79D ジム高冷地仕様 MS-09 ジム高冷地仕様

### 宇宙

宙間迷彩には宇宙に溶け込む黒や茶系などがあるが、黒は敵味方宇宙艦隊対峙に不向きなため採用率が減少した。金色も宙間迷彩として機能する。



MS-06F サクII F型 (銀面塗装) RX-D ユニコンガンダム 3号機 フェネクス

### ■MSの逆迷彩塗装

MSのなかには、意図的に視認性を高めた「逆迷彩」の機体も多い。ガンダムタイプのトリコロールカラーなどが代表的だが、敵味方識別のために目立つ塗装を施した事例もあった。



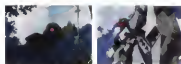
MS-06W 一般作戦型ザク ザナドゥ

### 作業用MS

前線に立たない作業用MSは重視されず、警戒色(黄色、黄色と黒のストライプなど)で塗装される。周囲に存在を誇示することで危険を回避するためである。



MS-06W 一般作戦型ザク ザナドゥ



ザクIIの標準色は森林やステップなどで迷彩として機能。ジェコンの型では機体形状が判別しにくいスプラッター迷彩の例も。

### 湿地

泥土や熱帯雨林などの運用を想定した迷彩塗装。ウドラント・バタンで塗装されたザクII F型の一部や、水陸両用MSのアカイが代表的であった。



MS-06J ザクII F型(湿地仕様) MSM-04 アッガイ

### 航空

空に溶け込むグレー系の塗装により、地上からの視認性を低下させるものが多い。ズプラス、グフ飛行仕様型の一部などの空戦用MSで採用。



MSZ-006A1 ズプラス MS-07H-2 グフ飛行仕様型

### 水中

水陸両用MSの迷彩は、主に水上・空中からの視認性を低下させるもので、運用想定水域の特性に合わせて茶系系、ブルー系、グリーン系などが選択される。



MSM-03 ゴツプ AMS-129M ゼーゼル

### 夜間迷彩

夜間迷彩は宙間迷彩に近く、黒が多用される。トムリット偵察型などが該当するが、ドムのように黒い塗装の機体が結果的に夜間迷彩になることもある。



MS-08TX/N イフリートナイト ZMS-059GE トムリット偵察タイプ

### 試作MS

テスト時に視認性が要求される試作MSは極端な塗装パターンを採用例があり、なかでもガンダムのトリコロールカラーは、のちの系列機に継承された。



RX-78-2 ガンダム MS-06RP 原案型ザク

### 敵味方識別

同士討ちを回避するため、目立つ塗装を施した例。大規模戦への移行にあわせて、黒から赤に塗装を変更したエウロのリンク・ディアスが代表的である。



MSM-099 リック・ディアス AMS-129 キヤズール(ネクロアーミー協力機)

## TECHNOLOGY INFO

### 耐ビーム・コーティングと特殊色

MSのカラリングには旧世紀の常識から遡ると派手な色も多く見られるが、なかでもMSN-001 デルタガンダムを皮肉とするシリーズの「金色」は群を抜いている。ただし、これは敵味方識別やエースパイロットのパーソナルカラーではなく、特殊な耐ビーム・コーティングによるものとされる。RX-0 ユニコンガンダム3号機フェネクスも同様のようだ。



百式は極端な例だが、一般的に金色の耐ビーム・コーティングとフェネクスにも相関関係があるという。

### MSN-00100 百式

百式の「金色」は、黄金衛星で偶然入手した特殊材料を調査した機密による耐ビーム・コーティングという。



### MSZ-006-3B

Zガンダム3号機B型「グレイ・セータ」は相違者の発見ミスで黄色とされたが、耐ビーム・コーティングの性能は灰色より高いというデータもある。



## MSの標準的カラーリングとその大幅な変更

MS-06 ザクⅡの緑、RGM-79 ジムの白と赤のように、MSは機種によって標準的なカラーリングが決まっている。標準カラーの採用基準は運用地域、機種区分、識別、組織の象徴的色彩などまちまちで統一したものはない。また、同じ軍事組織の保有MSであってもザクⅡは緑、ゲスは青、ドムは黒といったように機種ごとに標準カラーが異なるのは珍しくない。

ただし同機種が異なる軍事組織で運用される場合、フレンドリーファイア(同討ち)を避けるため塗装を変更するのが一般的である。エウゴのMSが代表例で、エウゴ仕様機のジム系MSは塗装を変更していた。

こうした配慮は、色彩に強く反応する人間の目の特性を鑑みたものであり、両視機のカラーリングが変更されるのも同様の理由による。MSは敵味方の識別信号を発してはいるが、有視界戦闘を強いられるミノフスキー粒子散布環境下では、肉眼で識別することも重要な点だ。ジムと同系のカラーリングを施したジオン公国軍の偽装MSゲム・カモフのように、特徴的塗装を「悪用」した機体も存在した。

## TECHNOLOGY INFO

### 特殊カラーの概要

同機種・異塗装のMSが少なからず存在するように、艦船にも特殊なカラーリングのものが散見される。これはMSの同機種・異塗装と似た理由がほとんどで、ペスバのタロ艦隊旗艦アマルテア級シュバッテンのように特定将校の座乗艦でも例がある。画題面での変更例も多く、エウゴが連邦軍から奪取したサラミス改級サワフヌなどが該当する。



**ムサイ艦隊巡洋艦(偽装型)**  
シーマ艦隊所属のムサイ艦隊巡洋艦(偽装型)。一般的な偽装型は緑のカラーリングを採用している。

魚の骨



リガミティアの「魚の骨」ペスバのノーベル艦隊を襲撃し、赤から白に塗装を変更したものである。

### 同系列・異組織による同機種・異塗装

グリブス脱走時のティターンズやエウゴのように、異なる組織で同機種を運用する際、各組織でカラーリングを変えることが多い。敵味方識別が大きな理由だが、特殊部隊専用色の場合もある。



内戦では同機種同士での戦闘が発生するため敵味方識別は必須。

### RMS-106 ハイザック

ジムⅡと同時期の連邦軍主力MSハイザックは通常、青・紫系の塗装だが、ティターンズ機は旧公国軍のザクⅡに近い緑系のカラーリングとなっていた。



ハイザック(ティターンズ)  
ハイザック(連邦軍)

### 敵国機種の塗装変更

直獲、強奪した敵機を自軍に配備する際、カラーリングを変更するのが一般的である(アグレシーブ機は一部例外)。視覚的な敵味方識別が主な理由だが「敵の色が嫌」という感情面の問題もある。



旧公国軍機を多数面陣して連邦軍は塗装を変更後、自軍に配備

### RX-178 カントラムMK-II

カントラムMK-IIは当初、黒とダークブルーの「ティターンズカラー」で塗装されたが、これを奪取したエウゴはトリコロールに近い塗装に変更した。



カントラムMK-II  
(ティターンズカラー)  
カントラムMK-II  
(エウゴカラー)

### RMS-179/RGM-79R ジムⅡ

U.C.0080年代中期の連邦軍主力MSジムⅡを運用することになったエウゴは、緑系のカラーリングで識別した。この塗装は他の旧式機でも採用された。



ジムⅡ(連邦軍)  
ジムⅡ(エウゴ)

### AMX-107 バウ

ネオ・ジオンの可変MSバウの量産仕様機は緑系のカラーリングだが、第一次ネオ・ジオン戦争末期の内戦ではグレミー軍機がグレー系でリペイントされた。



バウ(連邦軍)  
バウ(グレミー軍)

### MS-06F-2 ザクⅡF2型

旧公国軍のザクⅡF2型も接収した連邦軍は、一年戦争後、訓練などを目的に豪州トリン基地に配備した。この際、塗装はホワイト系に変更されている。



ザクⅡF2型(公国軍)  
ザクⅡF2型(連邦軍トリン基地配備)

### ZM-S06S ソロアット

ペスバの宇宙用主力MSソロアットは組織色と見られる赤の塗装。これを直獲したリガミティアは白にリペイントし「ホワイトアット」として運用した。



ソロアット(ペスバ仕様)  
ホワイトアット(リガミティア仕様)

### 機体色の継承

歴史の長いMSシリーズでは、後継機に塗装パターンが継承されることがある。その代表例がジムタイプで、白と赤の塗装パターンが、ジム改などを経てジムⅡまで継承された。ジムⅡ以降も、RGM-86R ヌーベル・ジムⅡやMSA-007T ネットレーナータイプ、RGM-89D ジェガンD型(先行配備機)での採用例があったといわれる。



ジオン系では、ザクⅡの基盤に属するギンドウガやギンズールに緑系の塗装が継承され、特長士気にも影響した。

### ■ジム系



### ■ザクⅡ系





## 敵味方識別にとどまらない パーソナルカラー

MS各機種の標準的カラーリングは基本的にひとつで、例外は運用地域や任務に合わせた変形、敵味方識別を主目的とする変型機の塗装変更、そして特定のパイロットまたは部隊の専用機であることを示す、いわゆる「パーソナルカラー」だ。MSのパーソナルカラーは一年戦争開戦以前に既に採用されており、赤く塗装された「赤い特選」シャア・アズナブルの乗機や、特務MS小隊「黒い流星」の黒いMSは広く知られている。

シャア専用機のように目を引きやすいパーソナルカラーは隠密作戦などで不利になりかねないが、そのまま運用された。実際、一年戦争時のジャブロー降下作戦では、赤く塗装されたシャア専用のMSM-07S「ズゴック」が、ステルス性重視のMSM-04「アッガイ」の部隊と行動を共にしており、デメリットよりメリットが大きいと判断されていたことがわかる。

敵人のメリットが士気への影響で、名の知れたエースパイロットや要人が搭乗することを意味するパーソナルカラーのMSは、味方の士気を高揚し、敵にプレッシャーを与えた。

## ■パイロットのパーソナルカラー

公国軍に始まる。特定パイロットの専用機であることを示すパーソナルカラーのMSは、将兵の間で盛ん好まれた。連邦の1/30程度の国力しか有なかったという公国は、軍の士気高揚策の一環として極端な実力主義

(成王主義)をとった。これには「一兵卒でも将軍に昇進できる」ことを意味していた。パーソナルカラーのMSは強力なパイロットが搭乗していることを意味するため、敵味方の士気に与える影響も極めて大きかった。

### A シャア・アズナブル

宇宙世紀で最も有名なパーソナルカラー。「赤い特選」の異名の要因となった。アグニス時代には赤いMAにも搭乗したという。



### B ガルマ・ザビ

公国軍の地球方面軍司令ガルマ・ザビ大佐もパーソナルカラーの乗機を有した。彼のアイドル性もあって将兵には人気だったようだ。



### D ニムバス・シュターゼン

“ジオンの騎士”を自認するニムバス大尉は、乗機の肩を赤く塗装した。機体の一部のみにはパーソナルカラーを配した珍しい例である。



### C シン・マツナガ

“ノロモノの白狼”ことシン・マツナガ大尉は白い機体色の専用機で知られているが、当初は機体の一部のみが白い塗装だったとされる。



### E アンジェロ・ザウバー

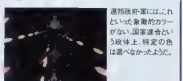
袖付きのアンジェロ・ザウバー大尉のギラズールは、彼のパーソナルカラーである蒼で塗装。改修後も蒼のカラーリングを維持した。



## TECHNOLOGY INFO

### 組織を象徴するカラーリング

MSを中心とする兵器のなかには、国家、軍、民族などを象徴するカラーリングを施したものも存在する。ジオン公国軍一緑、ペーパー赤といったイメージがあるのは、これが一つである。こうした勢力にとっての象徴的カラーは、組織的アイデンティティと強力に結びついており、積極的に使用された。



### ネオジオン残党軍

袖付きは旧公国軍で多用された緑を、旧式MSや戦艦にも使用。士気高揚の一環だったと思われる。



### ■部隊でのカラーリング

部隊単位で統一した塗装を採用する例が、特殊部隊や一部のMS部隊などで見られる。将兵個人レベルでのカスタマイズに非積極的な連邦軍に多く、反連邦勢力にプレッシャーを与えたようだ。



### B ゼネラル・レビル

連邦宇宙軍における地球軌道艦隊再建の象徴的大型艦「ゼネラル・レビル」では、都戦MSをサブパウンとオレンジで塗装。

### A ティターンズ

ジオン残党勢力部隊として誕生したティターンズでは、MSに「ティターンズカラー」と呼ばれる黒・青系の塗装を採用。一部例外もある。



### C 黒の部隊

クロスボーン・バンガードの「黒の部隊」は、MSを黒と紫で塗装した。なお、レバ・バンガードは通常の機体色であった。



### ■MSの発光

ビーム兵器などの例外を除けば、位置の異に直結する発光は回避するべきだが、発光をともなうMSも存在する。



### A RX-0 シリーズ

デストロイモードのRX-0は、原因不明の発光現象をともなう。機体ごとに発光色は異なるが、覚醒状態ではグリーン系に統一される。





# 「シャアの反乱」期の世界

グリアス戦役と第一次ネオ・ジオン戦争が終結しても地球連邦政府の宇宙軽視は変わらず、難民の救済にも非難的であった。その結果が、旧エゥーゴ勢によるロンド・ベル隊の編成とネオ・ジオンの再編だった。



## 一年戦争以来の負の遺産と地球圏の現状維持

グリアス戦役とそれに続く第一次ネオ・ジオン戦争の終結は、ティターンズの解体とネオ・ジオンの弱体化、エゥーゴの有名無実化をもたらした。2年におよぶ紛争の主要な事象は、歴史の表舞台から降りざるを得なくなったわけだが、地球連邦政府は存続した。しかも、一年戦争以来の戦乱の発生要因である宇宙世紀政治とコロニーへの締め付けが継続され、スペースノイドの反感を買うことになってしまった。

連邦政府の政策に変化がないことは、地球圏の現状維持を意味する。実際、一連の紛争で発生した難民への対策はスウィートウォーターの建造程度しか行われず、ネオ・ジオン復活の一因となった。

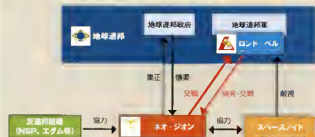
## 組織間関係と旧エゥーゴの「内戦」

連邦政府も大質量アステロイドの管理強化、ティターンズの後継となる反連邦勢力掃討部隊の新設は進めた。結果、誕生したのが外銀新興部隊「ロンド・ベル」だが、構成員は旧エゥーゴ。カラバの将兵が多かった。その主敵のネオ・ジオンはシャア・アスナフが指揮しており、旧エゥーゴ勢による「内戦」といえる状況になりつつあった。



ロンド・ベルにはブライアーノアやアムロレイ、ネオン・オンにはシャアやエグムがあり、旧エゥーゴ。カラバ同士が対立する形となった。

## 「シャアの反乱」期の組織間関係



## 「シャアの反乱」期の地球圏各地

連邦軍参謀本部シャブロー、連邦の首都ダカール、政府官邸陣が一時的に退避していたダブリンといった連邦政府の重要地域が戦災を被ったこともあり、連邦政府・軍の本拠はチベットのラサに置かれた。対するネオ・ジオンは、反連邦感情が強い難民コロニーのスウィート・ウォーターに拠点を移している。もっとも他のコロニーでも「ジ

オン・スラム・ダイクンの遺児」であるシャアとネオ・ジオンへの支持は厚く、ロンド・ベルの捜索活動を一般スペースノイドが阻害することも多かった。ネオ・ジオンの戦力が減少していたこと、地球寒冷化作戦が失敗したことから「シャアの反乱」で戦災を被った地域は限定されるが、5thルナが落下したラサの被害は甚大であった。



アクシズはロンド・ベルの破壊工作で分断、地上から監視可能な距離まで接近した地球圏外へ移動した。



Illustration by TOKIO YUZAWA (Twin Bell)

# GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

## vol.26

## MSN-03 ヤクトドーガ

劇場映画「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」劇中では、ギラ・ドーガの上位交換ニュータイプ専用機として活躍するヤクト・ドーガ。ただしガンブラのラインナップは若干手薄なのが痛いところか。

## 『バリエーション機』の特徴を徹底に再現

劇場映画公開時に発売されたガンブラの「逆襲のシャア」シリーズ最大の特長は、1/144にているプラ成型トポリキップススナップフィットが標準化されたことだ(ただし部分的にはビス止めを併用)。1/144 ヤクト・ドーガはギルネイ専用機(1988年1月発売)にしてもクス専用機(1988年4月発売/価格は共に864円)にしても当然ながら同フォーマットが採用されており、「面倒な塗装作業は最小限に留め、可動に重きを置いて楽しみたい」というような人からすれば非常に理に合ったキット内容と言えた。

両製品は当然ながらバリエーションキットだが、フェイスガード形状と装飾はそれぞれ異なるパーツをセレクト(クス機はギルネイ機には存在しないメガ・ガトリングガンが付属する)。また、両機シールドに装着されているファンネルは取り外し式となっている。プロポーションはデザイン面と比べるとややボリューミー過ぎる印象を受けるが、組み立てて容易で可動範囲も相応に確保されており、この時代にリリースされた製品と考えれば充分秀作の部類に属すると言ってよいはずだ。

ヤクト・ドーガはボリキップ化が容易な構造だが、胴体と前腕、大腿部にはネジ止めが採用されていた。

クス機は後述キットのため、効果的に劇中では使用しないビーム・アサルトライフルも付属している。

RE/100 シリーズでのキット化により  
一気にガンブラの「幅」が出た幸福感

ヤクト・ドーガ初のリニューアル化となった1/144 ハイグレードユニバーサルセンチュリー=HGUCは、劇場映画公開時に発売された製品と同スケールのキットであった分、ガンブラ19年分の進化がそのまま見て取れる内容と化した。ギルネイ・ガス専用機(2007年10月発売)とクス・エア専用機(2007年10月発売/価格は共に2,376円)は旧キットから価格が3倍近く高値化した計算になるが、それでも十分に納得のいく製品内容と言えるだろう。



ヒート・ナيف付ビーム・サーベルの握り手部分には、クリア成型の発光パーツを装着する1/144 HGUC。

まず構造的な部分で話すと、肩が下がったり足が内股になったりしないよう、関節の可動範囲を的確に制御。これはHGUC共通の特長とも言えるのだが、そのおかげで大胆なアクションポーズが非常に決まる結果と化した。ギミック&ディテール面に注目すると、首パーツの可動により飛行時の顔部角度が再現可能となり、腰部サイドアーマー内にヒート・ナيف付ビーム・サーベルの握り手部分パーツが収納可能と

1/144 HGUCの首を飛行形態時の角度に固定し、ファンネルを射出状態にした形態。技師の格好良さだ！

1/144 HGUCのバリエーションモデルたるクス機は、メガ・ガトリングガンの迫力ややはり魅力時か。



なった。両腕アーマーに装着されている8機のファンネルは着脱式で展開状態のパーツも用意されており、展開状態のファンネルを数発クリアー棒の使用により宇宙空間でのファンネル射出状態を再現することができるアイデアもおもしろい。なお、クス機にメガ・ガトリングガンが付属するのは旧キットと同様である。

そして、近年になりスタートした新カテゴリー「RE/100 (リボーンワンバドレック)」シリーズ(マスターグレードモデル=MGと同サイズの1/100ながら、洗練されたパーツ設計で組み立てやすさを重視しパーツ点数を大幅に減らしたモデル)にて、2018年9月にギルネイ専用機が製品化された(価格4,860円)。プロポーション&シルエットは劇中のイメージを尊重しつつ、密度感を高めるための細部ディテールを大量に追加。プロポーションが過去最高レベルに引き上げられたのみならず、脚の可動範囲が広がる特殊な構造が採用されていたり、また、MGのような内部フレームが存在しない分、改造至上主義者のガンブラマニアからすれば最高のプレゼントとなったはずである。

展開状態のファンネルを射出状態にする手法は、HGUCのそれを踏襲しているRE/100。ディテールも秀逸。



# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
27

## お知らせ

読者の事情により、「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。  
次号、第27号の発売は10月1日(火)です。

## アレックス

アムロ・レイ用に開発された新型ガンダム。  
マグネット・コーティングや全天周視モニターの他  
防御力向上のため、チョバムアーマーが用意された。

お買い得になるかも! 発売日をメールでお知らせします!

先売日お知らせメール

<https://deagostini.jp/oshirase/gms/>

QRコード



- 戦場レポート  
アレックス、起動
- MS機体解析  
機体解説/武装解説
- 関連MSラインナップ  
アレックスと関連機体
- MSパイロット  
クリスティーナ・マッケンジーと  
周辺人物
- MS戦記  
アレックス 戦闘の記録
- MS進化論  
アレックス 開発系図

豊富なビジュアルと資料によって、毎月1号のMSを多角的に解説!

GUNDAM

MS Bible

RX-78NT-1、アレックス

27

アレックス

ANEX

RX-78NT-1



Yamaguchi, Kikuchi  
Shigeru, Ueda  
Kikuchi, Shigeru  
Shigeru, Kikuchi, Ueda  
Shigeru, Kikuchi, Ueda  
Shigeru, Kikuchi, Ueda



ニュータイプの反応速度に対応すべく、各種技術を導入された新型ガンダム

DRAGOSTINI

第27号

10月1日(火)発売

定価:本体639円+税

※地域によって発売日が異なる場合があります。  
※マガジンの内容が変更となる場合があります。

敏感過ぎるレスポンスからパイロットを選ぶようになった新型ガンダム

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

キャンペーン  
期間特別価格

699円

(1冊/8%込み)

特価期間:2019年9月末まで

さらに便利な  
ステッカー付き!

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌10号分を収録できます。

※内容でもご購入いただけます。※発売日は変更になる可能性があります。



好評  
発売中

バック  
ナンバー  
ご案内



21 キャプラン



22 リ・ガズィ



23 ビグロ



24 ガンダムF91



25 ジム

※第1号〜第20号も好評発売中。全国の書店でお買い求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説！

GUNDAM

# MS Bible

Mobile  
Suit

THE OFFICIAL

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

MSN-03 ヤクト・ドーガ



26

ガンダムシリーズ 1/100 全機集

## ヤクト・ドーガ

JAGD DOGA

# MSN-03



Total Weight : 21.0tn  
Weight : 28.0t  
Total Weight : 94.8t  
Material : Gundarium Alloy  
Generator Output : 3,340kW  
Thrusters Total Propulsion : 82,000kg



小惑星アクシズを巡る戦いの急先鋒となったニュータイプ専用機



DeAGOSTINI

